

スレイ ヴィッチニア(義足ランナー)

日本に着いた一日目のかすみがうらマラソン前夜祭に沢山の応援者に会えた。皆さんはカンボジアから行った私のような障害者を差別せず心良く歓迎してくれとても嬉しかった。

日本は道路が大変綺麗で、交通ルールもきちんと整って安全で、とても衛生的な国だった。

学校を訪問して話しをしましたが、日本の高校生や小学生は一生懸命勉強し、非常に賢く皆さんとても可愛かった。

マー ヴィロー (ランナー)

日本は経済がとてもいい。地下鉄、高速道路などの道路がたくさん整備されていた。子供たちは皆さん全員学校に行けて、文房具なども充分持っている。

食べ物は衛生的で、とても美味しかった。他の国に比べ、安全で環境が良かった。

印象に残ったことは、日本の人々は皆さん必死に働いている。その結果、国が発展している。日本で経験した事をカンボジアの人々に伝え、カンボジアも日本のように繁栄できるように皆で頑張ればと帰国後、強く思っている。

ブン ソチアット (通訳)

今回通訳として、再び日本へ行く事が出来、以前行った時と比べ色々な経験をして帰国しました。まずマラソン大会の前夜祭とHG会員交流会に沢山の皆様とお会いでき、色々なお話が聞けて、とても勉強になりました。交流会にも参加し、マラソン大会の事、それから今後の活動に役立つ事をそれぞれお互いに応援すること、励むこと、個人一人一人の意見や提案などを言い合いました。

関係者の皆さんがこれまで協力しているからこんなに大きいイベントに参加でき、そしてHGも成長してきたのだと思いました。

やはり人は一人では大きい仕事はできません。たくさんの人達と協力し合って、お互いに励み合い、アドバイスし合いながらやっていかなければ成果は出てこないと言う事を実感させて頂きました。

自分達カンボジア人も外国人ばかりを頼らず、自分達で協力し合わなければこれ以上は国が成長できない。これがないからあれが出来ないという思いはもう捨てて、なぜこれが無い、なぜ自分達は他の人達と協力出来ないのか？理由や原因などを見つけなければならぬのだと改めて気づかせて頂きました。

また、マラソン大会に2万7千人の参加者がいたと言う事にびっくりしました。寒い日にも関わらず選手皆さん一人一人が必死にゴールまで走っているのを見て、本当に素晴らしいと思いながら、当日の寒さで体が震えている自分、それから今まで走った事がない自分、今までスポーツにぜんぜん興味が無かった自分が元気を貰って今年のカンボジアで行われるマラソン大会に是非参加してみようと思いました。

最後に強く感動した事は、日本で学校訪問ができ、小学生・高校生と触れ合える時間があつた事です。どの子も笑顔で歓迎してくれました。私達カンボジア人にカンボジアの事に関して積極的にどしどし手を挙げて質問出来るなんて、きちんと教育を受けているのだと羨ましく思いました。カンボジア人の先生方にも、教育技術を勉強する機会が欲しいと思いました。

最後に、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。チャンスがあれば是非皆様と日本で再会したいと思っております。